

「スポーツの秋1」

R611月5日 by神谷竜司。

1989年11月2日高橋暢一先生に私の漫画原稿読んで
もらい、“明日からアシスタントお願いします”と、言ってもら
い高橋先生と一緒に野球しました。

私のスポーツの秋の思い出です。



「スポーツの秋2」

by神谷竜司。

☆漫画アシスタント時代、水島新司先生のアシスタントチーム(ポッツ)と対戦でプロ並のポッツにいきなりノーアウト満塁のピンチ。負けを覚悟でピッチャーを私に交代。私は色々考え“ドカベン”の真似してマウンド上でキャッチャー座りして投球。狙い通りポッツの方々は大カベン投法はバット振れず三振。スリーアウトチェンジ後に水島新司先生が様子見に来て無得点に激怒、でも、ポッツのキャプテンが「神谷がドカベン投法で打てなかった」と話すと水島新司先生は、「ドカベンじゃ打てないよな～」と納得。忙しい中水島新司先生は私のドカベンの真似を楽しみ、仕事に戻られました。なかいま強が「俺、神谷みたいに水島新司先生の前であんな事できないよ」呆れてました。



私の“スポーツの秋”のもう一つの思い出です。
神谷竜司。

「スポーツの秋3」 by神谷竜司。

☆アニメ会社時代社長に、「父がジャンボ尾崎と友人で私少しレッスン受けた」と話すと社長が「神谷君プロゴルファー猿の動検して」と命令。プロゴルファー猿の作者藤子不二雄A先生が「猿のアニメ化条件に、大人が楽しめる」とあったから。後で藤子A先生が尾崎さんの指導受けた人が動検したと知り、とても喜びお礼に社長を銀座の店に招待したそうです。ゴルフできなくても私はアニメプロゴルファー猿の作画とその検査してきました。私のスポーツの秋の思い出の一つです。



「スポーツの秋4」
by神谷竜司。

